

病害虫発生予察情報(飛騨地域) 7月予報

【 水稲 】

いもち病(葉いもち)

BLASTAM(アメダスデータを用いたいもち病感染好適条件判定システム)によると、連続した感染好適日の出現は確認されておらず、6月下旬調査でも発病は認められませんでした。名古屋地方気象台の長期予報によると降雨が並~多いと予報されているため、感染好適日の出現増加が懸念されます。感染好適日出現から5~10日後に発病が認められるようになるため、今後の発生状況に注意が必要です。

斑点米カメムシ類

5月5半旬~6月4半旬にかけて、国府町の予察灯への誘殺数は34頭と、平年(21.5頭)と比較して多く推移しており、今後多発すると予想されます。出穂2週間前までに畦畔等周辺の草刈りを行い、カメムシ類を水田に近づけないようにしましょう。

【 野菜 】

タネバエ

管内2か所に設置したトラップにおける誘殺数が多く、ハウレンソウほ場での被害が散見されます。本虫は鶏ふんや未熟堆肥などの腐敗臭に誘引されるため、これらの使用は控えるとともに、発生ほ場では播種時に粒剤を施用してください。

【 果樹 】

果樹カメムシ類(主にクサギカメムシ)

現状、予察灯への飛来は少ないですが、夜間の気温や湿度が高いとほ場へ突発的に飛来するため、ほ場内をよく観察し、発生が認められたら薬剤防除を実施してください。

○主な病害虫の発生状況及び今後の予測(7月)

	病害虫名 (防除適期)	生育状況 発生量	発生時期及び防除適期						防除上の注意事項
			1半旬	2半旬	3半旬	4半旬	5半旬	6半旬	
水稲	生育(高山市)	並							(生育はコシヒカリ)
	葉いもち	やや少	<発生最盛期>						葉いもち
	紋枯病	並	<初発生>						BLASTAM発病好適条件(防除所HPで公開)
	斑点米カメムシ類	やや多	<畦畔雑草に発生(7月~)>						の5~10日後に発病する。発生しやすい地域では防除を徹底する。
	防除適期		▲←	葉いもち(初発前)	→▲				斑点米カメムシ類
				▲←	紋枯病(穂ばらみ~出穂期)	→▲			一斉草刈り実施期間(7/10~20)に草刈りを実施する。
					▲	一斉草刈り	▲		
						(7/10~20)			
ハウレンソウ	べと病	並	<連続発生>						べと病
	タネバエ	多	<成虫発生盛期>						感受性品種では梅雨明けごろまで発病に好適な時期になるため、薬剤による防除を必ず行う。
	防除適期		▲←	べと病(感受性品種、防除)	→▲				タネバエ
				▲←	タネバエ(防除)	→▲			定植時に粒剤を施用する。
トマト	灰色かび病	並	<発生盛期>						灰色かび病
	防除適期		▲←	灰色かび病	→▲				多発してからの防除は困難なため、ハウス内をよく観察し、花がらや葉先枯れは速やかに除去するとともに、予防剤を散布する。耐性菌が発生しないようにローテーション防除を実施する。
									(予防剤の散布、ローテーション防除)
野菜全般	コナガ	やや少	<連続発生>						コナガ
	アブラムシ類	並	<連続発生>						薬剤抵抗性が発達しやすいため、同一系統薬剤の連用は避ける。
	防除適期		▲←	コナガ(ローテーション防除)	→▲				アブラムシ類
			▲←	アブラムシ類(防除)	→▲				高温乾燥が続くと多発する。ウイルス病を伝染するので防虫ネット・シルバーマルチで飛来を抑制する。

注) ▲、▲←→▲: 防除適期

	病害虫名 (防除適期)	生育状況 発生量	発生時期及び防除適期						防除上の注意事項
			1半旬	2半旬	3半旬	4半旬	5半旬	6半旬	
果	生育(高山市)	並							(生育はモモ)
	シンクイムシ類 (特にナシヒメシンクイ)	少		第2世代 <幼虫最盛期>					シンクイムシ類 心折れ枝の多かった圃場では、果実への食入に注意する。
	カメムシ類	やや多	< 越冬世代成虫・新世代成虫 >						カメムシ類
	せん孔細菌病(モモ)	やや多	< 感染拡大期 >						せん孔細菌病 発病が確認された園では、本病に登録がある薬剤を選んで防除を行う。
樹	防除適期		▲ シンクイムシ類(防除) ▲ ▲← カメムシ類(果樹園飛来時) →▲ ▲← モモ せん孔細菌病 →▲						

注) ▲、▲←→▲: 防除適期

調査データ

表 令和元年年6月のBLASTAMによるもち病の発病条件

日付	萩原	宮地 (下呂)	金山	高山	白川村	六蔵 (荘川)	宮之前 (朝日)	河合	神岡	栢尾 (上宝)
6/1	-	○	-	○	-	○	○	-	○	○
6/2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/6	-	-	-	-	◎	-	○	-	-	-
6/7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/8	◎	◎	◎	◎	-	◎	△	△	●	△
6/9	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-
6/10	△	△	-	-	-	-	○	-	△	-
6/11	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-
6/12	-	-	-	-	○	○	-	-	○	○
6/13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/15	-	◎	-	-	-	-	○	-	-	-
6/16	-	-	-	-	-	-	-	△	△	-
6/17	-	-	-	-	○	-	○	○	○	○
6/18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/19	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/22	-	●	◎	-	◎	◎	◎	-	-	◎
6/23	-	-	◎	-	-	-	-	-	-	-
6/24	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-
6/25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

凡例 △: 準好適条件 (湿潤時間10時間以上だが、前5日間の平均気温は20℃未満)
 ▲: 準好適条件 (湿潤時間10時間以上だが、前5日間の平均気温は25℃以上)
 ○: 準好適条件 (湿潤時間10時間以上だが、湿潤期間の平均気温は15~25℃の範囲外)
 ◎: 準好適条件 (湿潤期間が湿潤時間中の平均気温ごとの必要な時間より短い)
 ●: 好適条件 (湿潤時間中の平均気温が15℃~25℃であり、湿潤時間が湿潤時間中の平均気温ごとに必要な時間を満たし、当日を含めてその日以前5日間の日平均気温の平均値が20℃~25℃の範囲にある)
 -: 好適条件、準好適条件は満たされなかった

* 感染好適条件 (●) が現れると感染し、潜伏期間 (5~10日) を経て発病します。

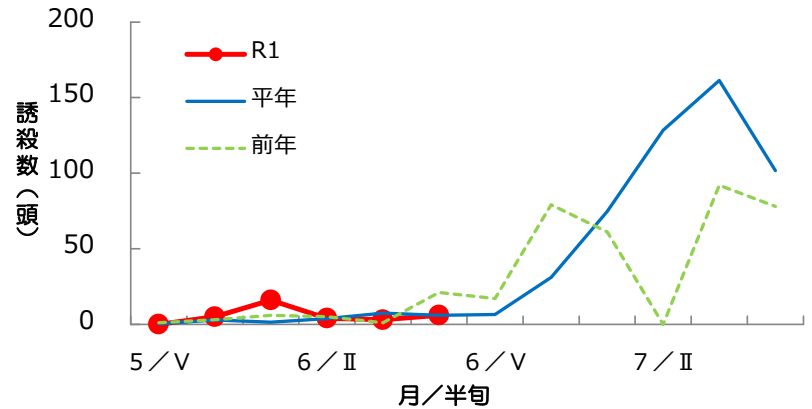


図1 予察灯による斑点米カメムシ類(全種合算)誘殺数の推移(高山市国府町)

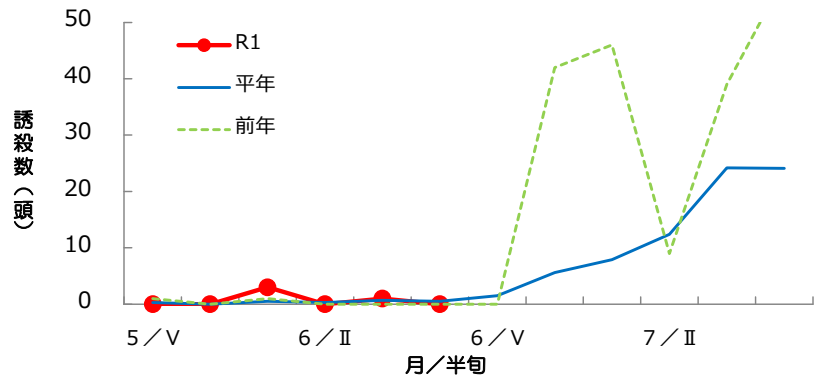


図2 予察灯によるクサギカメムシ誘殺数の推移(高山市国府町)

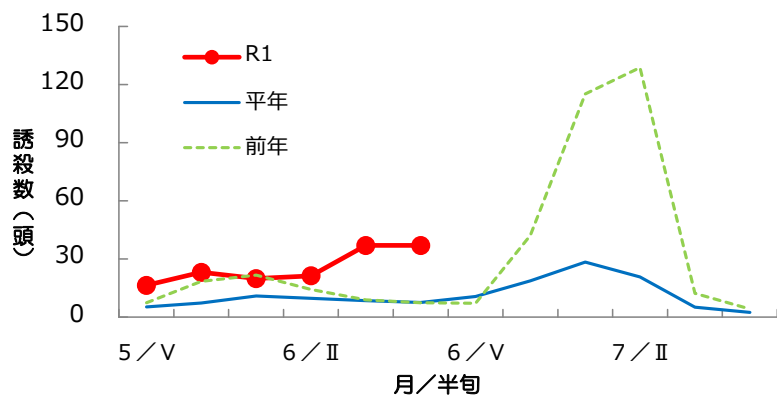


図3 タネバエ誘殺数の推移(高山市下林町)

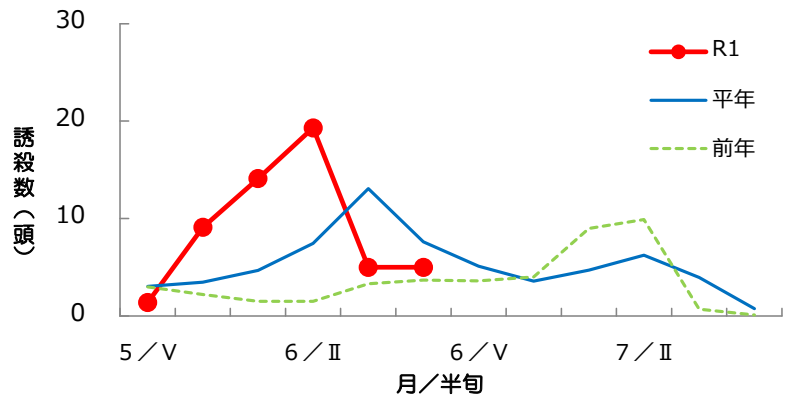


図4 タネバエ誘殺数の推移(飛騨市古川町)

6~8月は「農薬危害防止期間」です。

農薬の適正な使用、保管管理に努め、農薬を散布する場合は、周辺に栽培されている作物のみでなく、住宅地等を含めて飛散がないよう、十分に配慮してください。

東海地方1か月予報(名古屋地方気象台 6月20日発表)

向こう1か月の気温は平年並、降水量は平年並~多く、日照時間は平年並~少ないと予想されます。平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

岐阜県病害虫防除所では、この他に病害虫の詳細な調査データをホームページにて公開しています。

<http://www.pref.gifu.lg.jp/sangyo/nogyo/gifu-clean/24321/>

飛騨支所 〒506-8688 高山市上岡本町7-468 TEL (0577)33-1111(内線245) FAX (0577)34-2706